

## 葉月：第5話「夏の集会」

子どもたちの歓声が学校に戻ってきた8月31日に、運営委員会が計画した夏の集会がありました。

夏の集会は、異学年交流を通して、互いのよさに気づくことが目的です。6年生の班長は、リーダーとして班員をまとめる責任感を養い、班員は、班長を助けて思いやりの精神を培うことを意識させたいと考えていました。

メイン種目の「オリエンテーリング」は、たてわり班ごとに校舎を回り、指令に応じていくものでした。

「笑ってはいけないゾーン」では、6年生及び先生方が思い思いの仮装をして、子どもたちを笑わせようと試みてい

ました。笑うというよりも怖いという仮装もあり、何だかきもだめし大会のようでもありました。一方黄緑のゼッケンをつけた6年生が、リーダーシップを発揮して、笑わないように具体的な指示を出していました。「目をつぶってもいいよ」と作戦を授ける6年生もいました。



この光景は、次の「しゃべっちゃいやーんゾーン」でも見ることができました。しゃべらせようとする6年生も、だんだんと慣れてきて、「明日、いっ

しょに遊ぼう?」「ここはしゃべってはいけんのよ。知ってる?」とさりげなく言葉を引き出そうといろいろ工夫していました。

この他にも、各学年の算数の問題を解く「学習ゾーン」、音楽に合わせて踊る「ふりふりゾーン」「まちがいさがし」や、新聞紙が落ちないように走ったり、玉入れをしたりと、「ミニ運動会」のような種目もありました。



残暑厳しい中の夏の集会でしたが、長い夏休みで「忘れかけていた」学校生活のリズムや、仲間と過ごす楽しさを思い出してくれたように思いました。また、このように、全校児童が一つの目的に向かって行事を行うことにより、子どもたちや先生方一人一人に元気を与えてくれたように思います。

最後に、恒例の「よこはま家族」をコールして、夏の集会をしめくくりました。